

平成23年 ローソクボツケ分布量調査結果速報（2）

北海道立総合研究機構稚内水産試験場調査研究部 電話：0162-32-7166

- ・ 稚内水試では試験調査船北洋丸により、2003年以降、毎年9～11月に稚内ノース場(811, 812, 813漁区)で着底トロールによるローソクボツケ(0歳魚)の分布量調査を行っています(図1)。この調査の目的は、新しく資源として加わる0歳魚の資源豊度を早期に評価し、資源の将来予測に役立てることです。調査では各漁区で原則2回の曳網を行い、その漁獲量から評価しています。2011年11月7～8日に第3次調査を実施しましたので、第1次調査、2次調査の結果を合わせてその概況を報告します。
- ・ 図2に2006年から2011年までに稚内ノース場で採集されたホツケの体長組成を示しました。体長16～24cm台が概ね0歳魚で、2011年は1歳魚以上の大型魚はほとんど採集されませんでした。他の調査から2009年級群(2歳魚)、2010年級群(1歳魚)の資源量が少ないことがわかっており、このことが本調査においても確認される結果となりました。
- ・ 9月の調査における曳網1マイル当たりの0歳魚の平均漁獲量は42.9 kg/n.m.と比較的早くから0歳魚の来遊がみられましたが、10月は7.1 kg/n.m.と低い値でした。11月の調査では平均漁獲量は225.3 kg/n.m.と急増したことから、主群の来遊が遅れていたのではないかと考えられます。一方、0歳魚の平均体長と加入尾数との関係には負の相関が見られ、資源豊度の高い年級群ほど平均体長が小さい傾向が見られます。2011年級群の平均体長は207mmと平均的な値であったことから(図3)、2011年級群の資源豊度は中程度と判断されます。
- ・ 現在、道北海域のホツケ資源は産卵親魚が減少し危機的状況にあることから、翌年の産卵親魚を確保するためにも、2011年級群を少しでも多く残すことが大切と考えられます。

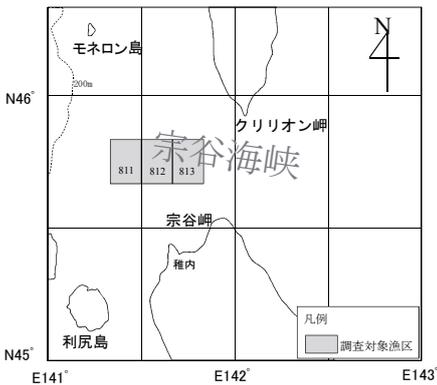


図1. 調査海域

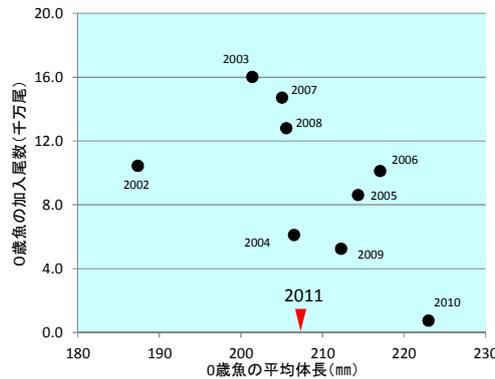


図3. 10月の0歳魚の平均体長と加入尾数の関係

表1 着底トロール1マイル当たりの0歳魚の平均漁獲量(kg/N.M)

調査年	9月	10月	11月
2002年	データ無し	212.3	67.6
2003年	71.0	147.7	データ無し
2004年	1.6	22.8	データ無し
2005年	114.2	185.9	データ無し
2006年	0	0.1	312.6
2007年	23.6	213.6	121.5
2008年	19.9	18.4	794.9
2009年	75.3	107.6	218.4
2010年	5.1	0.1	6.8
2011年	42.9	7.1	225.3

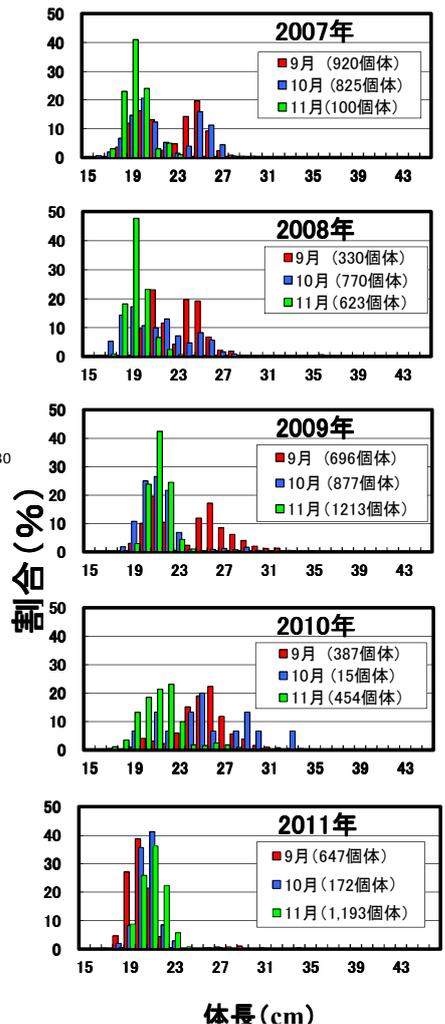


図2. 採集されたホツケの体長(個体数は測定尾数)